

令和7年度 第2回 T A I T O フューチャースクール検討委員会

開催日	令和7年7月15日(火) 午後4時00分から午後5時30分まで
場所	台東区役所 6階 教育委員会室
出席委員	高橋委員、垣野委員、小出委員、田中委員、渡邊委員、佐々木委員、山田委員、中島委員、仲田委員、宮脇委員、増嶋委員
欠席委員	土肥委員
配布資料	① 資料1 TAITO フューチャースクール検討委員会 先進校視察報告 ② 資料2 TAITO フューチャースクール検討委員会 中間報告に向けて ③ 資料3 研究モデル校報告(上野小学校)

■議事概要

1. 開会

(1) 事務局報告

ア 先進校視察について

(ア) 春日井市立出川小学校

令和4年度より文部科学省研究開発学校、令和5-7年度リーディングDXスクール指定校として、GIGAスクール環境を活用した情報活用能力育成を研究。自立した学習者育成を目指し、新設「情報の時間」を主軸に探究的学びを重視。片廊下型教室でもオープンスペースがなくても、児童が主体的に学習場所・方法・協働相手を選択し学習を展開。一人1台端末で音声入力練習やスプレッドシート活用による学習状況の見取りを実施。

(イ) 春日井市立高森台中学校

出川小学校と連携し、令和4年度から研究開発学校、令和6-7年度リーディングDXスクール生成AIパイロット校として指定。「学校を離れても自分で学び続ける」生徒育成が目標。生成AIを活用し、情報量増加とアウトプット向上、コミュニケーション能力成長が顕著。従来の知識暗記から実社会で役立つ学力育成へシフト。

垣野副委員長：学級人数、継続年数、他校への影響について質問。継続的取り組みの経緯と市内での認知度に関心。

高橋委員長：中学校約35人/学級、小学校は学年により異なる。研究は中学校10年、小学校13-14年継続。春日井市内での人事異動が少ないことが継続性に寄与。横展開は課題だが、新教育長が推進中。不登校児童生徒もオンライン学習で繋がりを維持。

田中委員：保護者の理解啓発について質問。

高橋委員長：推薦入試では圧倒的に強い。保護者体験型授業参観で理解促進。

渡邊委員：フロア各所のプリンター配置によるアウトプット環境整備を評価。

(2) モデル校報告

ア 校内研究・研修について

(ア) 台東区立上野小学校

「守破離」の考えで整理。低学年は基礎基本定着、中学年で技を広げ、高学年で自己選択・自己決定を実現。年 7 本の研究授業予定で現在 3 本実施。GoogleWorkspace を活用し、カレンダー機能による情報共有、チャット機能による授業中連携を実施。オープンスペース活用やロッカー後面への白フィルム貼付で自然な学習環境をデザイン。

(1) 台東区立駒形中学校

主体的学習を目標に基礎学力・授業力向上を研究。GoogleWorkspace 導入により朝の打ち合わせ時間 5 分短縮。スプレッドシートを活用した他者理解実践で、英語授業において生徒が相互参照しながら自己改善を実施。Kahoot!による英単語学習でゲーム形式を導入。

イ その他

田中委員：特別な道具ではなく当たり前使用前に使用。児童は授業動画視聴により事前学習し、深い学びを実現。

渡邊委員：カレンダー機能への PDF 添付で資料検索が効率化。

(3) 事務局提案

中間報告に向けて

3 年事業の 2 年目として中間報告を実施。1 月教育委員会報告後、3 月区議会報告予定。報告項目として、①はじめに(設置目的等)、②検討経緯、③現状と課題整理、④中間的提言・方向性、⑤モデル校成果と普及方向性、⑥最終年検討課題(GoogleWorkspace 活用、生成 AI 利活用、情報活用能力育成カリキュラム、横展開支援策)を提案。

(4) その他

高橋委員長：中教審で情報活用能力が重要論点。①情報技術活用、②適切取り扱い、③特性理解の 3 本柱で整理。探究的学びを支える基盤として位置付け。学習を情報→知識→智への転換過程と捉え、調べる・まとめる・伝える活動の重要性を強調。達成目標的従来学力から向上目標的新学力への転換を提言。

田中委員：主体的に学習に取り組む態度の評価について懸念表明。

高橋委員長：評価と評定は別。台東区として統合的視点でのカリキュラム作成が今後重要。

渡邊委員：企業が求める能力変化を指摘。学び続ける力の重要性。

小出委員：GoogleWorkspace 活用による子供の成長に期待。

垣野副委員長：“place to prepare for life”の概念提示。人生の準備の場としての学校観。

次回開催：9 月 18 日(木)午後 4 時

3. 閉会